

食残 C (たべのこしー) について

文責：食残 C

- 新たに吉田寮に入られるみなさん、こんにちは！

このページでは、食残 C (たべのこしー) について説明します。食残 C っていうのは、

吉田寮**食**堂を **残**そう 実行委員会 (Committee)

の通称です。

- なんで吉田寮食堂を残そうとしているのか？まずそこから説明したいと思います。

「吉田寮食堂」(以後、「寮食」) は、吉田寮の西側にある建物です。

木造の建築で、今年で築 97 年！を迎えます。

現在の寮食はそもそも、食堂と呼ばれるものの、食堂としての機能はありません。もともとは寮の食堂だったんですが、大学側が 25 年ほど前に食堂機能を一方的に停止したからです。

そのまま、何の使い道もない空間のままだったなら、取り壊されても無理はないかもしれませんが。

しかし、そうではない。

食堂の機能を失い、単なる「空間」となった寮食は、いつのまにか色んな人たちが集まって、さまざまなイベントを行うスペースとしての使い道を見出されました。

食堂の厨房だった部分には、音響機材を持ち込んでバンドの練習が行われています。食堂のスペースではさまざまなイベントが開催されるほか、サークルなどの活動拠点にもなったりします。

吉田寮の、自治の精神ですね。人間関係の網の上で、寮食は生き残り、息を吹き返しました。ライブ演奏をする人、演劇をする人、パーティをする人、この「空間」に魅せられた色んな人たちが、色んな使い方で、寮食を盛り上げて来たんです。

現在でも完全な自主管理を貫いており、食堂に関しては食堂使用者会議、厨房に関しては厨房使用者会議が機能して、管理を行っています。

そう、魅せられるんです。ここには、僕らの何かを惹きつけてやまない環境があるんです。

- ところが。2009 年の 4 月頃、寮食を取り壊すかも、という話が大学当局から持ち上がりました。この寮食のさらに西のスペース(「焼け跡」と、寮食を取り壊した跡地に、新しい寮を増築して、今の寮に住む人たちの受け入れ態勢を整え、それから今の寮の建て替えの話を進めて行こう、という提案が、大学当局からなされたのです。

新しい寮を建てること自体はよい提案なのですが(ただし現在、大学当局がこちらに対し示

している案は決してよいものではありませんが)、寮食を取り壊す、というのは食堂・厨房使用者を含め反対の声が多く、何とか食堂を残したまま新棟を建てることはできないか、と模索することになりました。

そこで、これまでに大学当局との交渉を何度も重ねてきました。寮食がいかに貴重な空間であるかを主張したり、建築に関する各種の規制を調べたり、寮食を取り壊さずとも、十分に人を収容できる建物が建てられることを、図面とにらみ合いながら話し合ったり…etc.

こうした活動は現在に至るまで続いていますし、依然どうなるか分かりません。**寮食は今、揺れ動いています。** 京都大学は今のところ（2010年2月現在）吉田寮食堂を取り壊すことを前提として、吉田寮の新棟建設を計画しています。私たちは寮食という場所のかけがえのなさを訴えかけましたが、依然として議論は着地点を見いだせないままです。端的に言えばこのような状況なのですが、当然それだけでは言い尽くせません。

●とにかく、寮食を取り壊されては、僕らにとっては一大事というわけです。

そこで、こうした活動のさなか、**2009年5月頃**に作られたのが、**食残 C** です。何とか寮食を残しつつ、新しい寮を建てることはできないのか？

その方法を探っていくために、吉田寮自治会とも連携しつつ、大学当局と交渉していこう、という非常に重要な役割を担う会議です。

寮食に興味がある、という人は、寮外・寮内、学外・学内を問わず誰でも参加できます。吉田寮食堂の存亡に大きく関わられます。寮食の雰囲気にかかれた方、建物に愛着の湧いた方には、ぜひ食残 C の会議を覗きにきてもらいたいです。興味があれば、食堂・厨房使用者会議、寮食でのイベントにも、積極的に参加して頂きたいです。